

今 新田川では

西殿橋 (にしどのばし)



ここは、原町区錦町で新田川に架かる西殿橋（通称にしどんばし）です。

全長 103.2m、幅員 8.7m、1961 年竣工です。

頻繁に車が行きかい、私たちには馴染みの橋ですね。

橋脚には「避難判断水位」の文字が見えます。

川面は静かに流れています。

秋には、鮭が遡上してくることでしょう。

すぐ上流には常磐線が走ります。



すぐ脇には「西殿橋側道橋」があります。全長 113.1m、2004 年竣工です。

歩行者は安全に通ることができますね。

近くには西殿公園があり高い木などが涼しそうな木陰を作っていました。この暑さで誰もいませんでした。夕涼みにはいいかもしれませんね。



センニンソウ (仙人草)
別名：ウマクワズ
きれいな花なのに有毒植物だそうです

いよいよ台風シーズン到来！！

昨年の 19 号台風と 10 月 25 日の豪雨の被害が脳裏をかすめます。

台風シーズンに備えて、マイホームを点検してみましょう

☑ 外壁の亀裂、欠損の有無等



☑ 雨樋・・・経年劣化、割れ、剥がれ、欠損、ごみの有無等



☑ 側溝や排水溝の排水具合



☑ 瓦、トタン等・・・割れ、ずれ、欠損、谷の部分のごみの有無、笹の葉などの付着等



☑ ガラスのひび割れはないか！

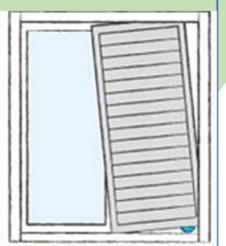
☑ 流れた雨水が床下等に侵入しないか！

☑ 塀などは傾いてないか



☑ 住宅を直撃する物などはないか

☑ 雨戸や窓枠のガタツキはないか！



お休みの日などに ☑ してみましょう。手におえない時はご連絡ください。22-7619

LINEでもお問い合わせが出来るようになりました👏🙌

LINE 🟢 だと時間🕒を気にせずに、気軽に問い合わせができますね👏🙌

何かお困りごとがあれば、お電話かLINE 🟢 でご用命ください😊

LINEは私、佐藤麻矢が返信いたします👧



「ありがとう」が嬉しいやりのあるお仕事！

一生モノの技術が身につきます
◆昇給・賞与有◆



内容 新築住宅の建設や、バス・トイレ・外壁・屋根などのリフォーム (主に南相馬市、相馬市)

資格 学歴・年齢不問、大工経験のある方

給与 月給 230,000 円～322,000 円 *経験などを考慮し決定いたします

時間 8:00～17:30

休日 日・祝・他(会社カレンダーによる)

待遇 昇給有、賞与年1回

社会保険・労災・建退協完備、法定有給休暇

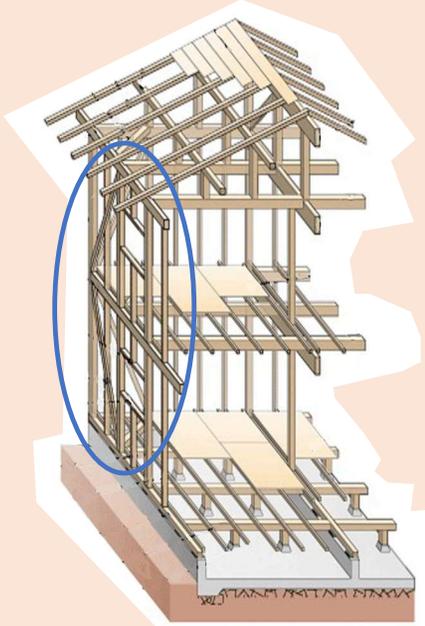
試用期間2か月(本採用時と条件変更なし)

自車通勤OK、通勤費支給(規定あり)、資格取得支援あり、資格手当あり

応募 まずはお電話、もしくはLINE (ID: @809ynrzj) よりご応募ください

■一般住宅・店舗等の設計施工・不動産・耐震診断
有限会社 佐藤建業

シリーズ
建物の部材の名称
その3 (柱等構造躯体編)



通し柱 (とおしばしら)
2階建て以上の建築物において、土台から軒まで通った継ぎ目のない柱。
構造上で最も重要な柱。通常の柱より2・3倍長く、主に外周に建てられる。

断面形状
正四角形

まぐさ (目草・楣)
窓や出入り口など、開口部のすぐ上の横材。

断面形状
長方形

筋交い・筋違 (すじかい)
柱と土台・梁 (はり) などによって囲まれた四角形の枠組みに斜めに取り付けられる補強部材。地震や風圧などの横揺れを緩和する働きがある。

断面形状
長方形

窓台 (まどだい)
窓の下部にある柱間に渡した横架材。
「まぐさ」と対になる。

断面形状
長方形

間柱 (まばしら)
柱と柱の間に建てられる細い柱のこと。石膏ボードやサイディングボードなどの壁材を固定するための下地材。

断面形状
長方形

管柱 (くだばしら)
● 胴差しなどで中断された柱のこと。1階2階にあり、上からの荷重を受ける構造材。

断面形状
正四角形

胴差し (どうさし)
● 2階の床の高さで建物の周囲を巡る横架材のこと。2階の床を作るための部材で通し柱の側面に刺さる形で固定される。

断面形状
正四角形

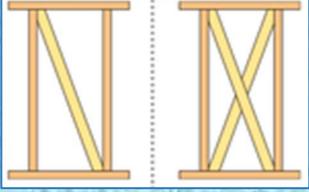
筋交い Study

先人達は、博学多才の方たちが知識を駆使して建築用語を名付けたと思われま。お見事!!

ここで



袈裟懸け (けさがけ)



たすき掛け (たすきかけ)



筋交いには木造の場合2種類あり、2本の柱の間に1本の木材を渡した袈裟懸けと、2本の柱をX状に渡したたすき掛けとがあります。壁強度倍率は前者が1.5~2.0倍、後者が3~4.0倍です。

柱にまつわる童謡をどうぞ!!

『背くらべ (せいくらべ)』

作詞・海野厚 作曲・中山晋平



粽 (ちまき) 中身と形は地方により異なり、北日本東日本はこの形におこわを入れる

- 柱の傷は おととしの
五月五日の 背くらべ
ちまきたべたべ 兄さんが
計ってくれた 背のたけ
昨日くらべりゃ 何のこと
やっと羽織の 紐のたけ
- 柱に凭 (もた) れりゃ すぐ見える
遠いお山も 背くらべ
雲の上まで 顔出して
てんでに背伸び していても
雪の帽子を 脱いでさえ
ーはやっぱり 富士の山

<解説>

歌詞は端午の節句に、背丈を計ってもらった子供の視点で書かれていますが、これは作者海野の17歳年下の末弟、春樹の視点から描かれていると言われ、「兄さん」が海野のことです。
柱の傷が「一昨年」なのは、「去年は」海野は早稲田大学の学生で東京におり、静岡県の実家にはかえってこられず、弟の背丈を計ってやる事ができなかったからです。
2番の歌詞では、弟春樹が「富士山」と背くらべしている様子がうかがわれます。
「てんでに 背伸びしていても」の後に続く歌詞の意味は、柱にもたれながら遠くに見える富士山と背比べをした弟だったが、やっぱり富士山は日本一高いなあ・と感心している様子が描かれているのではないのでしょうか。
海野は28歳で結核でなくなっている。
きっと海野の瞼には、あの弟との背くらべや、山やまの背くらべ懐かしくおもいだされていたことなのでしょうね。
古き良き日本の日常を感じられるような素敵な曲なので、歌い継がれているのでしょう。